

【都市と美術研究所】2022年7月19日（火）研究会 発表要旨

## 広島市現代美術館の休館中アウトリーチ活動

Outreach Programs of the Hiroshima City Museum of Contemporary Art During the Closure

笹野摩耶(広島市現代美術館学芸員)

SASANO Maya

Curator of Hiroshima City Museum of Contemporary Art

---

広島市現代美術館は、1989年、公立館では国内初の現代美術を専門とする美術館として、広島市の中央部に位置する緑豊かな比治山公園内に開館した。「第二次世界大戦以降の現代美術の流れを示すのに重要な作品」、「ヒロシマと現代美術の関連を示す作品」、「将来性ある若手作家の優れた作品」の3つの方針に沿って作品を収集し、多様な様相を示す現代美術の動向を紹介する展覧会を実施してきた。とりわけ「ヒロシマと現代美術の関連を示す作品」は、被爆の記憶をもつ土地で活動する当館の性格を特徴付ける方針である。

黒川紀章が建築設計を手がけた美術館の建物は、広島を代表するポストモダン建築として知られている。開館から30年あまりが過ぎ施設の老朽化が進んだため、2020年12月からは改修工事のため休館し、美術館として必要な基本的機能の回復を図るとともに、バリアフリー化の推進、展示機能の強化や多目的スペースの増築を進めながら、2023年3月に予定されているリニューアルオープンに向け準備を行っている。

美術館の施設を使用できない休館中は、比治山公園に近いアパートの一室に分室を開設して展示と情報発信を行うほか、広島市内の施設と連携したコレクション作品展示、学校での作品展示とワークショップの実施、幅広い世代に向けたまちなかでのワークショップの開催など、まちに繰り出して継続的に活動している。今回は当館のこれらの休館中アウトリーチ活動の事例を中心に当館と都市との関わりについて紹介する。

### 略歴

2014年大阪大学大学院文学研究科修士課程修了。2017年より広島市現代美術館学芸員。担当した主な展示に「丸木位里・俊－《原爆の図》をよむ」（2018年）、「夏のオープンラボ：タイルとホコラとツーリズム season6」（2019年）など。